



文化協会報

せせらぎ

第10号

発行 平成5年12月2日
東部町文化協会
印刷 東鉄印刷(株)



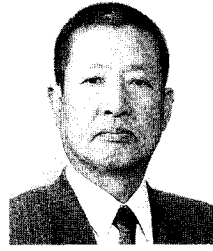
人と文化が織りなす創造の陽だまりを目指して

文化協会に期待します

—よりよい郷土づくりのために—

東部町議会議長

百瀬善彦



東部町は二十世紀を目前にして刻々と変貌を遂げております。それに最も大きなインパクトを与えているのは申すまでもなく、やがて開通する高速道でありましょう。

発展していく東部町に対し、近隣市町村の人々からは異口同音に「東部町はいいですね」とうらやましがられます。その皆さんがもっている東部町へのイメージは、高速道・インターチェンジ、浅間サンラインの開通、既存の十八号線等々、いわゆるハード面を捉えての発言と思われる。確かにこれらは東部町発展の大きな要素であることはまちがいありません。

しかし、真によい町、住みよい町であるためには、このハードな面に加え、ソフト面の充実がはじめて素晴らしい町ということができるでしょう。

町では現在、住みよい町づくりのために生涯学習を積極的に推進しておりますが、文化的学習の面では文化協会の皆さんの力に期待するところ大であります。

幸い東部町には、すぐれた歴史・文化・伝統があり、そして何よりも文化協会の皆さん

をはじめ、若い人々の間にも地域文化の見直し、そして創造するといった学習意欲が盛んなことが人変心強く、これからの町の将来に夢と希望を与えてくれます。

地域文化を守ろうという気運は、単に復古主義とか地方主義とかいうものではなく、自分の生き方・精神の基盤を見直すとするところでもあります。

私たちは、もっともっと自分の郷土のことを知り、郷土を愛し、郷土に誇りをもちたいものであります。こうした行動がそのまま町の発展につながり、やがて誰からも東部町はよい町だと言われることができるのだと思います。文化活動は人変地味な活動ですが、文化の弱い地域は停滞し、繁栄しないということとは歴史的にもはっきりしており、今後ますます強まっていくと思われれます。

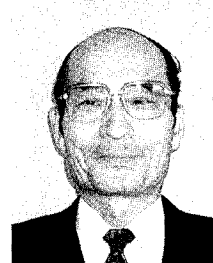
人生八十年時代を迎え、より充実した人生、そしてこの町に住んでよかったと実感できるような町づくりを、文化協会の皆さんを先頭に行政と一体となって進めて参りたいものです。

我々東部町議会といたしましても、そのために最大の努力と協力を惜しまないつもりです。終りに会員皆様のご活躍と文化協会のご発展を心からお祈り申し上げます。

“文化”は“人”を育てる

東部町公民館長

石川好一



「からだをきたえ、教養を高め、豊かな文化とスポーツの町にします。」ご承知の通り、これは、わたくしたち陽だまりの町—東部町町民憲章の一節である。

「文化のあふれる町づくり—」なんと明るく、快い、心温まる響きを持った願いであろうか。

そういえば「文化」ということばの響きの中に、美を創り出すことを求めて止まない人の心が、また、真を追求してその本質に迫ろうとする厳しい人の心が、さらには、善を求めてやまぬ人間性あふるる人の心がともども織りなして醸し出す計り知れないふくよかさを感じるのには私一人であろうか。

「文化は人の心によって創り出され、人はまた、文化によって養われる。」と言った先人のことばが思い出されてくる。

江戸時代のごとき恐縮だがこんな話を聞いたことがある。

ある大切な会に招かれた大名が、さて、祝宴となつて、自分の膳の上に並べられた汁椀の蓋をとり、すぐまた元通りにして、しばしの蓋をしてしている様子であったが、左右に

居並ぶ大名たちに軽く会釈して手洗いに立った。そして、付添う案内係のお小姓に、

「私の膳の汁椀の蓋を取ってみたが、中は空、係りの人は、汁を入れたつもりだったが、どうだろうか。このことが、お前の大名に知れば、きつとお前たちは咎を受けるであろう。そこで、私は手洗いに事よせて立ててきたわけだ。私が座に戻ったら、お汁が冷めたと思えますので、取り替えて参りましょう」と

言って、椀を下げ、改めて入れてきた方がよいであろう。」と、知恵を授けたという話である。

この大名の心くばり気くばりは、どこから湧き出してきたのであろうか。おそらくは、真・善・美を求め追究する中に、おのずから身に備わった「恕」（人からこうしてもらいたいと思うことを、まず、自分から進んでやる）の精神からであろうと思われる。文化を求め、創り出し、生み出さんとする人の生き方の中には、人として神仏たらしめる魔性が秘められているように思えてならない。

この陽だまりの町、東部町にどかんと腰を据えられ、それぞれに、町文化の一翼を一杯で受けとめられ、ご活躍されておられる協会のみなさんに心から敬意を表するとともに、会報「せせらぎ」のますますの充実発展を心よりお祈り申し上げます。

町政三十七周年 文化行政協力表彰者

平成五年度

《役員紹介》

会 長 丸山光夫
副 長 関山義豊
副 長 小林清枝
監 事 佐藤利明
監 事 深井千津子
(常任理事)

鈍刀入魂 (木彫)

近喰 和夫

この度、ささやかな私の仕事に対し表彰を
していただき、たいへん光栄に思います。関
係の皆様方のご配慮に、心から感謝を申し上
げます。さて昭和五十二年、我が師、中村運
司先生からバトンを受け、木彫教室の講師と
して十六年間、未熟ながら精一杯つとめてき
ました。この間何百人もの方との出会いがあ
り、木彫の勉強を進めながらも、折にふれ政
治や環境問題等を話題にして、小さな議論な
どをしてきました。多くの人との交際の中で、
私も沢山学ぶ事がありました。人は木に接し
ているとやさしくなれると思います。ともす
れば、近代文明は自然(木・土・水など)か
ら受ける恩恵を忘れがちですが、もう一度謙
虚な気持ちでさまざまな事を考え、行動した
いものだと思います。これからも「鈍刀入魂」
木彫を通じて人と人との和の広がりに微力を
尽くしていきたいと思えます。

人形

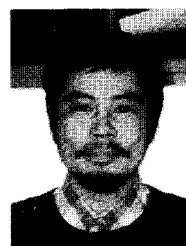
高橋 節

今度東部町発足三十七周年祝賀記念式の席
にて、思いがけない感謝状を頂き、私だけ
なりに、人形のお仲間の皆様と共に御礼申し
上げます。
いせん先生が「一、心の修養、二、技術、
作者の心が人形に表われますから心を磨いて
下さい」と申されましたが、なかなか出来ず
お恥かしゅうございます。
此の世に生まれ合わせた多くの人々との出
会いの尊い時間、共に学び語り合い慰め合い
乍ら人形を創る喜びは、人生の宝となり、葉
となり、心の清き深みを覚えます。
明るい笑顔で手の先を動かし、優しい母の
面影、無心な童、乙女の初々しさ、娘の晴姿
つつましやかな奥様など、種々人形に表現す
る事は老化を防ぎ、心に温もりの暖かさとし
さを抱かせます。此の機に長生きをし、一
層文化活動に明日を願い、頑張らねばと鞭う
ち進み度く願って居ります。

永遠の一秒 (陶芸)

山崎 良徳

陶芸が妻であるとするならば、Installati
on(空間芸術)は、ききわけのない恋人の
様なものである。どちらも私の心象風景を表
現する上で大切な手段なのだ。
粘土という材料を得てそれを成型、焼成し
陶芸作品とする時、それは至上の喜びであり、
素材を選ばず、思い切り好きな表現のできる
Installationも、ここに表わせぬ程の幸福
感を与えてくれる。
たかだか三十二年間の陶歴と、十年のInsta
llation歴。
感性の低さとまずさは隠しようもないのだ
が、それでも、両者でもって永遠なる自己表
現を続ける。
孤高なる高邁な精神を持ち「喜び」「怒り
」「せつなさ」「苦しみ」これらを的確
に表現し得る事が、私の生涯の「美」の追求
である。



川柳部会	邦楽部会	藤手芸部会	文芸創作部会	棋道部会	古文書部会	音楽部会	盆栽部会	陶芸部会	俳句部会	短歌部会	菊花部会	人形部会	手芸部会	茶道部会	華道部会	合唱部会	謡曲部会	詩吟部会	舞踊部会	民謡部会	彫刻部会	書道部会	写真部会	絵画部会
柳沢	佐藤	山本	高橋	吉沢	宮坂	貢内	竹内	萩原	小原	小林	松沢	岩下	長岡	寺島	寺島	土屋	関屋	関屋	小松	荒木	近喰	小林	原田	山田
異	雄	フツ	ジイ	亨	高	甚一	貞良	成人	武二	久江	房視	止代	厚子	志づ	まさる	征志郎	透	誠	久俊	正和	寅吉	駿輔	甲子男	

部会紹介

今回は、各部会をすべて取り上げて紹介してみました。町内には、文化活動をしているグループは二百十三グループあります。あなたも何か趣味を持ってエンジョイしてみませんか。グループについての問い合わせは文化協会事務局へ（電話六二一三七〇〇、FAX六二一三二六二）

絵画部会

山辺 甲子男

絵画部会は四グループ・会員数八十二名の多くの者が、生涯教育の中で、芸術文化の向上、また情操創造の活動に、それぞれのグループで精進努力している。創作の道は、けっして平坦でなく遠く厳しい道である。しかし飽きたら駄目、続けて気楽にやる事で、上手下手は問題でなく、答は無いのだ。我が手より作品が出来る喜びは、自分の再発見でもある。教えるとか教えられるでなく仲間と一緒に人生を進みまた絵を描くのだ。

写真部会

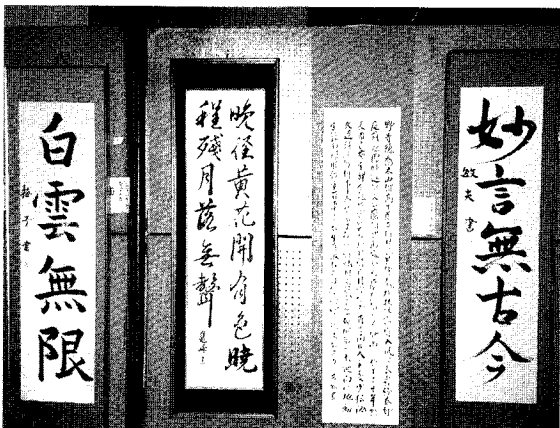
原田 駿輔

最近のカメラは高度に自動化され、誰が撮っても奇麗に写るようになったが、素晴らしい写真は中々撮れない。写真は一瞬の勝負であり、目頃からそれを発見する心構えが必要である。レンズを通して生活の場や風景・動植物・自然破壊や公害に対する怒り・人間社会の喜びや悲しみなど、心を込めて仲間と共に生涯学習として撮り続けたい。撮影会・月例会・コンテストの応募などで腕を磨いている。加盟は二グループ。

書道部会

小林 寅吉

書道部会は、小林教室・東部書道グループ・田中支部・のぞみ会・海善寺書道グループ・秀月教室・こまくさ会・いろは会・桂筆会・鷹野教室・曾根書道クラブ・新たに本年度から加沢書道クラブが入会し、全員で百十四名になりました。各グループ毎に適宜楽しく書の実技を磨いています。
一年一度の東部町文化フェスティバルには全員出品し、研鑽と親交の場を持ち、昨年度からは書初め大会行事も開催しています。



彫刻部会

近喰 和夫

題字には彫刻と書いたが「木彫り」と言っただ方がよくわかるかも知れない。
現在四グループ、総勢二十八名、年齢は三十才代から八十才代の年輩まで、そして二年から十年以上のベテランまで、下絵もそれぞれ違う。まさにこれが生涯学習の大きな特徴であろう。彫っている時は夢中、そしてお茶の時間の語りも良い。「美的価値を忘れずに、素朴にして堅牢そして奥行きも深い。」長くゆっくり歩みたいものです。

民謡部会

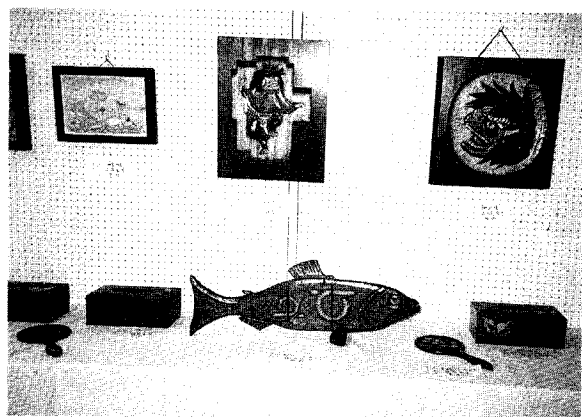
荒木 正俊

東部町に民謡の会が出来て二十一年になります。民謡部会には十五グループが加入しています。部会員は百四十六名です。
年に一回発表会を行っています。皆さん大変上手になりました。民謡は腹の底から大きな声を出して唄うので、身体全体を使い、健康のために非常によいと言われます。各グループ毎にたのしみ会や忘年会を行っています。ですので、心の健康にもよいです。大勢の人に民謡を勧めたいと思います。

舞踊部会

小松 久子

東部町将来の町づくりの方向として「芸術と文化」の町にノのスローガンの下に、舞踊部会も発会二十一年となりました。二十八グループのうち、年をとりすぎたからやめる会、新しく入会する会、男性も加わっての会と二十一年の歴史を経ております。年一度の発表会にむけ、各流派の伝統を守りながら、日々努力しています。体を動かし表現できる幸せを、生涯学習の一つとして、生き甲斐となるよう精進したいと思っております。



詩吟部会

関 誠

最近健康法の一つに腹式呼吸が有りますが、普段全く使わない、身体の内側の筋肉を、腹式呼吸により、又発声により運動させ、健康を保とうと言うものです。現在町内に三つの流派があり、会員百四十名程で、年に一、二回発表会を開催しています。大きな声を出す事は気持の良いもので、ストレスの解消にもなります。中国や日本の偉人達が詠んだ詩を、腹の底から声を発して、その頃の文化や風情にふれるのも良いものです。

謡曲部会

関 透

「初心忘るべからず」私達が親しんでいる観世流の流祖、世阿弥の名訓である。私はよく結婚式の祝辞等に引用している。今の時世は忙しさのあまり、徒らに日を送りがちであるが、謡曲等は格好の勉強の場である。昔は相当数の愛好者があった様だが、唯今では会員数五十名程に減少している。とりつきにくい趣味と思うが、年をとっての最高の楽しみであると思信するので、もっと多くの人に親しんでもらいたい。

合唱部会

土屋 征志郎

歌う楽しさとハーモニーの美しさを求めて練習に励んでいる集団、これが合唱部会です。現在百三十名程が加盟しています。町の音楽祭へ出演するほか、毎年好評の東部町コンサートのも体として、計画から実施まで一致協力して活動しています。慢性的男声不足に悩みながらも、前向きに生涯学習の一翼を担うつもりで発展を目指して行きます。

華道部会

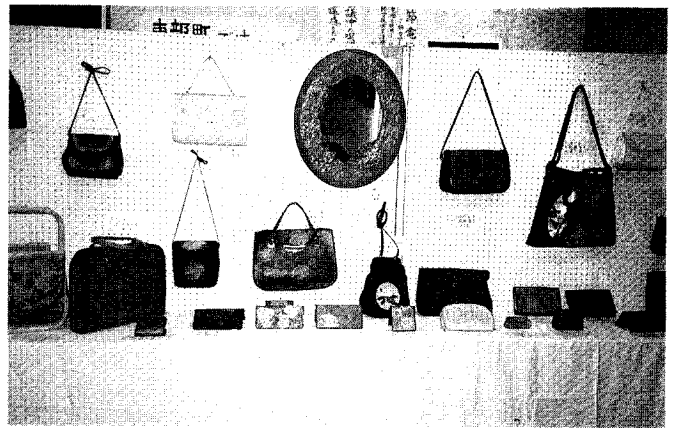
寺島 まさる

せせらぎ十号発刊おめでとうございます。華道部は、古流松藤会、遠州流、小原流、龍生派、草月流と五流派、部員も百四十余人の大部隊です。文化フェスティバルにはその中の六割程しか出品出来ず、皆で顔を合わせることがありません。生け花とは植物素材を使った立体造形といわれています。いつか皆で力を合わせ、全員参加の華道展が出来るとを、願っています。

茶道部会

深井 千津子

茶道部は、八グループ七十余名で構成されており、多忙な生活の中で、静かな時を過ごすことは大変に幸せなことです。利休さんが佗び茶を大成させたのは戦国の世でした。茶碗や棚の由来にその昔を偲び、野の花と語り、稽古を積みほどこに茶道の奥深さ・きびしさを知ります。同時に、興味は限り無く広がり、新たな感動が生まれます。真心に裏打ちされた茶道の稽古を、私達はたゆまずに続けたいと思います。



手芸部会

小林 俊子 (代筆)

手芸部会は、表具と編物のグループ構成のところへ、後からレザークラフト(革工芸)とパン粘土が加入しました。現在は表具二、編物四、パン粘土二、レザークラフト一のグループがあり、会員は七十一名。

部会全体の横のつながりはありませんが、それぞれに手先を使うこまかな創作活動に精を出しており、総合文化フェスティバルでの出品発表は、お互いの作品について語り合い、励まし合う楽しい機会です。

人形部会

岩下 止代

今から二十五年前頃、十数名で個人の家に集り高橋先生ご指導の下で日本人形の製作をしており、文化協会発足と同時に加入し、中央公民館でやはり高橋先生の下で続けております。以来年毎にグループが誕生し現在九グループ六十名が人形や押絵に、月一回或いは二回一生懸命楽しく明るく取組んでいます。心の交流の友と手先の動作は老化防止に、又休憩時の茶話も勉強。町の文化の一端に、その輪を広げ豊かな心の持てる人生を地域の中で育てることを念願につづけていきたいと思っています。



短歌部会

小林 久江

東部町短歌会は小林一義先生・飯島守夫先生のご指導を受け、会員は現在十名ですが、発足以来三十余年になります。此の間合同歌集の発刊をしてお互いの勉強の成果を確かめ合い、又毎月一回の例会は短歌批評の後、斉藤茂吉歌集をテキストに秀歌の鑑賞をしたことは、心が豊かになり創作意欲を高めたと思います。折々の会員相互の親睦もかねて近郊を歩く吟行会では新鮮な風景に触れ、作歌に行き詰まった気持ちを開くことが出来ました。

俳句部会

石井 補人

公民館のロビーに掲げてある俳句は、噴煙・石楠・石榴・るつぽ・加沢の五句会の連衆の俳句です。俳句は十七音の短詩型です。短く尖った針ほど深く刺さるように、短いことは逆に深いように思われます。ロビーの掲句は、こうした立場から作られた苦心の作品です。町民の皆さん！公民館にお出の節は、ひと時を割いて「此の句は何をどう見ているのか、何をどう掴んでいるのか」をご鑑賞頂きたいと存じます。

陶芸部会

荻原 成人

陶芸部会には、心陶クラブ、陶友クラブ、東陶会、愛陶クラブ、火窯クラブ、錦窯会、器楽会、どれもこの会の八クラブがあり、会員数五十五名、昼間が四、夜間が四クラブ、毎月二回、山崎良徳先生のご指導のもと陶器づくりに打ちこんでいます。それぞれに作陶した素焼きの作品に釉薬をかけ、さあよいよ窯に詰めて焼成する、どんな作品になって窯から出てくるのだろうか、最大の楽しみ。

盆栽部会

竹内 貞良

昨今の社会情勢はあまりにも忙し過ぎる。静かにも言わぬ植物を相手に情操の理念を培って、寂の美意識など感得出来る様なところ迄進展したらなど考える。植物を育てるには長い年月を必要とする。受け継ぐと言う事の大切さを組織が受け持ってくれることを願う。

愚考の一端を述べ、責を果したいと一筆。



音楽部会

頁 甚一郎

音楽部会の構成は、グループ数十一・総人数百六十二名で構成しています。特徴は色々なジャンルの寄り集りで、①カラオケ②ソング③フォークダンス④ハモニカ⑤ブルース⑥アンサンブル⑦ジャズ・バンドといった市の広いグループとなっており、今後の課題と致しましては、部会内合同企画の出来る事が念願でございます。今後共よろしくお願い申し上げます。

古文書部会

宮坂 高

町内および関係地域の近世宿場、村方文書を中心に、月一回(十一月より三月迄は二回)解説と話し合いをしております。「温故知新」という古語がありますが、古い文書をとおして遠い先人達の、生活、習慣、社会の状況を知ることが、現在の生活を考えるうえで大きな参考になります。会員は殆んど七十才以上で、読解力も高く話題も豊かで楽しい集りですが、高齢化による会員の減少が悩みです。

棋道部会

吉沢 亨

棋道部は毎月第二土曜日に町福祉センターにおいて月例会を行っている他、概ね隔月に毎年一回のちもと杯戦・坂口杯戦・町長杯戦・文化協会長杯戦・信濃画廊杯戦・コトヒラ杯戦等の大会を行って部員の親睦を深めています。なお部員は日本棋院東部町支部員も兼ねており、この関係の県人会・東信地区支部対抗戦等にも随時参加して大いに成果を挙げています。部では未加入の同好各位の加入を心から歓迎します。



文芸創作部会

高橋 ツイ

私其生涯学習で柳沢先生にお世話になって今年で十年目に入りました。あっと言う間の十年でした。最初は十人位でしたが次々とやめられて今では五名です。気の合った仲間毎月一回の例会が楽しみです。こんなに長く続いたのは良い先生と友人に恵まれ家族の理解が有ったからです。これからも生きたるしにたくさんの良い作品を残して行ける様、みんなで体を付けて一生懸命勉強して行きます。

藤手芸部会

山本 フジ

「今日は藤手芸教室、何を作ろうかな…」と、いそいそと準備して公民館へ。藤手芸部会は、二名の講師を中心に四つのグループが活動しています。メンバーは経験二年と十年と異なりますが、それぞれマイペースで「自らの暮らしを彩る藤の作品」作りを楽しんでいます。この教室では、製作の喜びを分かち合うだけでなく、メンバー相互の親睦を図り、地域の情報交換をするなど、思わぬ収穫があります。

邦楽部会

佐藤 雄治

邦楽というと箏曲・長唄・義太夫・浪曲・謡曲・民謡など日本独自の音楽のことを総称しています。音楽業界では歌謡曲やニューミュージックなども邦楽とよんでいます。身近にある関連楽器では箏・尺八・三味線が代表的です。特に大正琴・太鼓の愛好者は近年急増しています。町の生涯学習の一環として大正琴・三味線が取り入れられ活発な活動をしています。年一回の部会発表会では心身のリフレッシュ・会員の心のふれあい・豊かな人間関係を生み出す源にしています。

川柳部会

柳沢 巽

この秋から、お仲間入りさせて頂きました。今、同人は十四、五名。毎月一回例会を持って各自句を持ち寄り、楽しく進め、ふた月に一度発表表を出しています。川柳は、気楽に誰でも作れるもので、生活や人間社会を題材に、うがち、かろみ、ユーモア、風刺、祈り……などをねらった五・七・五の作句です。文化協会のお仲間になった機会に、ご希望の方は月例会においでください(連絡は六一〇二六四(県)柳沢 巽まで)

菊花部会

松沢 房視

町文化フェスティバルの行事に合せて十一月一日から十一月七日まで例年のように祐津小学校五・六年生の菊花を始め、ダルマ造りの作品等を併せて二百五十鉢余の見事な菊花の出来ばえに多くの皆さんに鑑賞されて大変好評でした。(代筆)



文化協会役員研修会に

参加して

関 義豊

初めての役員研修会は、九月二十九日二十名の参加者に乗せて、浅間サンラインを快調に走り軽井沢町追分に着いた。

軽井沢町の文化施設、堀辰雄文学記念館、追分宿郷土館、軽井沢町資料館を主として見学研修しました。

今年開館した堀辰雄文学記念館は、緑の芝生の中に簡素な建物があり、堀辰雄の在りし日を偲びました。追分宿郷土館はさすがに、古い街道と江戸時代に栄えた旅籠の名残りの物が多く陳列され、その保存の良さと豊富な資料と正確さに驚かされました。特に東部町の集落名も入った助郷絵図に興味をもちました。軽井沢町資料館は昔の道路交通を基調とした資料が多く、古東山道、東山道の絵図と説明で、幻の道東山道への興味と追究を求めているようであった。

見学をして気付いたことは、この町の四施設が共通の入場券で見学できることと、一つの町にこれだけの文化施設がある軽井沢町が羨ましくなった。国際都市として軽井沢町ならではの施設設備に感服した話が、昼食を兼ねた懇親会の話題になりました。午後は碓氷峠の熊野神社に参拝して、賑いの冷めた旧軽銀座の工芸、陶芸、写真店等を歩いてこの日の研修が終了した。

一日の研修会を通して、研修と親睦が程よく出来、来年もこのような企画で、是非参加してみたいという声が多くありました。



『お知らせ』

文化協会加入の各団体がそれぞれに学習してきた一年間の成果を、次の予定で発表します。町民の多くの皆さんが、ご来場くださいますようお願いしております。

- いきいき生涯学習発表会 二月十二日(日) 町中央公民館 AM 9 ~ PM 5
- 生涯学習町民の集い 二月十三日(日) 町中央公民館 PM 1 ~ PM 6
- 邦楽発表会 二月二十日(日) AM 10 ~ PM 4 サンテラスホール
- 民謡発表会 二月二十七日(日) AM 10 ~ PM 4 サンテラスホール
- 舞踊発表会 三月十三日(日) AM 10 ~ PM 4 サンテラスホール
- 東部陽だまりコンサート 三月二十日(日) PM 3 ~ PM 6 サンテラスホール

編集を終えて

冷夏と長雨の異常気象を挽回するかのよう、穏やかな小春日和が続いています。そんな日々の中で、「せせらぎ」の編集や打ち合わせに何回か文化会館まで足を運び、サンテラスホールの催物以外にも、身近に利用できる、私たちの「集いの場」があったことを認識したと思います。

さて、「せせらぎ」も第十号を迎えることになりました。一年に一度の発行でも、十年の歩みは感慨深いものがあります。

ひと言付け加えさせて頂きますと、「文化協会だより」が「せせらぎ」とあらたまり、大判になったのは第六号からです。

激動といわれた平成元年となり、文化協会発足十五周年を機に、名称も一新しようと、その時の編集委員が知恵をしばりました。三

十ほどの候補の中から、たまたま私が掲げた「せせらぎ」が、賛同を得られたといういきさつがありました。

時あたかも、私たちの町では、「ふれあい、たすけあい、学びあい、共に生きる」生涯学習まちづくりが推進されております。

「せせらぎ」の編集をしながら私は、文化協会役員の軽井沢研修会に参加させて頂いた、「総合文化フェスティバル」にグループとして参加したり、長野市で開催された「第四回生涯学習県民のつどい」にも参加させて頂きました。

中でも「県民のつどい」には、保科町長さんがパネリストとして出席され、「町づくりは人づくり」という、東部町の生涯学習の取り組みが、大勢の参加者に、かなり評価されたのではないかと感じました。

そして、詳しい事は書ききれませんが、わが町の生涯学習の推進には、文化協会の皆さんがその一翼を、いえ、大半を支えていると言っても過言ではないと、しみじみ実感しております。

今号は、百瀬議長さん、石川公民館長さん始め、多くの方々から、公私共にご多忙中、快く原稿をお寄せ頂きまして、本当にありがとうございます。なるべく原文を尊重したつもりですが、一部の修正はご了承頂きたいと思えます。

「せせらぎ」が、町民の皆様と文化協会をつなぐパイプ役となり、一人でも多くの方が協会に加入して、仲よく活動される事を願っております。

「せせらぎ」発行にご協力くださいました方々に心から感謝申し上げます。(小林俊子) 編集委員

- 丸山 光夫 関 義豊 小林 清枝
- 原田 駿輔 山本 佳一 山浦 桂子
- 唐沢美恵子 小林 俊子